

年間授業計画（令和5年度）

東京都立 東 高等学校

| | |
|--------------|---------------------------------|
| 科目（単位数） | 日本史（4単位） |
| 対象学年・（組・コース） | 3年 選択（○必修・自選） |
| 使用教科書（出版社） | 詳説日本史B（山川出版社） |
| 副教材等 | 新詳日本史(浜島書店) 4ステージ演習ノート(数研出版) |

| 学期 | 学習内容 | 学習の目標・留意点 | 学習活動（具体的に） 「読解力」「言語力」 「論理的思考能力」の育成 |
|-----------------------|---|--|---|
| 1 学期 (52) 時間 | 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 ・近代国家の成立 1 開国と幕末の動乱 2 明治維新と富国強兵 | ・幕藩体制の下での経済機構や交通・技術の発展、都市の繁栄などに着目して、農業や商工業の発展及び町人文化の形成を理解させる。合わせて入試対策も行う。 ・開国、幕府の滅亡と新政府の成立から明治時代の近代日本の歩みについて、アジアにおける国際環境と関連付けて理解させる。さらに入試に対応できるよう問題演習を行う。 | ・開国から幕府の滅亡について、文献資料や映像資料を利用して、幕府が滅びた理由を述べさせる。 |
| | ・近代国家の成立 3 立憲国家の成立と日清戦争 4 日露戦争と国際関係 5 近代産業の発展 6 近代文化の発達 | ・日清・日露戦争とその前後の国際環境、資本主義の発展と社会問題の発生などに着目して、アジア及び欧米諸国との関係の推移と近代産業・文化の発展を理解させる。合わせて入試対策を行う。 | ・大日本帝国憲法と現在の憲法である日本国憲法を読ませ、相違点をまとめさせる。 |

| | | | | |
|-----------------------|----|---|---|--|
| 2 学期 (56) 時間 | 前半 | <ul style="list-style-type: none"> 近代日本とアジア <ol style="list-style-type: none"> 1 第一次世界大戦と日本 2 ワシントン体制 | <ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦から第二次世界大戦に至る20世紀前半の我が国の歴史について、世界情勢と国内の動きを関連付けて理解させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦による日本の繁栄と恐慌への道筋を映像資料・文献資料の読解を通して理解させ、恐慌をどのようにしたら回避できたかを考え、述べさせる。 入試問題を用いて、読解力を養い、正確な解答を導き出せるようにする。 |
| | 後半 | <ul style="list-style-type: none"> 近代日本とアジア <ol style="list-style-type: none"> 3 恐慌の時代 4 軍部の台頭 5 第二次世界大戦 | <ul style="list-style-type: none"> 国際間の対立、国内政治と経済の動揺、戦時体制の強化、アジア近隣諸国との関係などに着目して、第二次世界大戦と日本のかかわりを理解させる。合わせて入試対策も行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 恐慌の原因をグラフや写真資料・映像資料を利用して考えさせ、意見を述べさせる。 軍部の台頭から第二次世界大戦への突入に関しては、どのようにしたら、戦争が回避できたかを映像資料・グラフなどを読ませ意見を述べさせる。 |
| 3 学期 (24) 時間 | | <ul style="list-style-type: none"> 占領下の日本 <ol style="list-style-type: none"> 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和 3 55年体制と経済成長 | <ul style="list-style-type: none"> 第二次大戦後の民主化と復興、国際社会への復帰、経済の発展と現代の日本について、世界の動向と関連付けて理解させる。合わせて入試対策を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 敗戦後から高度経済成長にいたる道筋を資料の読解を通して理解させ、日本のあるべき未来像について考えさせる。 入試問題を活用し、的確な解答ができるように読解力を高める。 |

評価の観点・視点

- 基本的な事項について理解しているか。
- 復習を兼ねた小テストが出来ているか。
- 史料を的確に読めているか。
- 自分の意見を明確に示すことができるか。
- 入試問題が解けるようになったか。
- 定期考査だけでなく、プリントや基礎力・応用力を問う発問を提示して、生徒の単元への理解度を確かめる。